

生物多様性がもたらすもの ～生態系サービスを考える～

私たちの暮らしは、多様な生物がもたらすものやその働きに支えられています。衣食住の隅々で生物や生物が生み出すものを利用し、生存を支える酸素は生物の活動により作られています。「自然の恵み」は多様な生物が織りなす生態系からの贈り物です。それらを「生態系サービス」と言い、機能により「供給サービス」「調整サービス」「文化サービス」「基盤サービス」に分かれます。



供給サービス

私たちの暮らしを支えている食料など生態系から得られるものが供給サービスです。綿のシャツや羊毛のセーターなど身にまとうものから、お米や野菜、果物など毎日の食事、木造の家など、暮らしの多くは生物由来のものにより支えられています。

滋賀県は中央に琵琶湖があり、周りを田や畑が取り囲み、さらに森が取り囲み、コンパクトな中にありながら多様性がみられ、山の幸である栃の実を利用した食べ物や、湖魚料理など多様な生活文化が見られます。

調整サービス

気候の緩和、災害の防止、安全な飲み水の確保など、人間が生きていくために快適な環境を整え、与えてくれるサービスが調整サービスです。

大雨が降ったときも、森では葉が雨粒受け止め、枝、幹と伝わりながら地中へと導き、災害や土砂の流出防止の働きにつながります。また、琵琶湖の周りや内湖に生育するヨシ原は、河川を流れる浮遊物や栄養分などをこしとりながら琵琶湖にそそぐ役割を担っています。

このように生態系が私たちの生活環境を緩和・調節してくれています。



文化サービス

自然や生きものとの触れ合いで、心の安らぎや安定が得られることがあります。自然の移り変わりがもたらす精神的なものから、審美的なもの、さらにレクリエーション的なものなどあります。

また、琵琶湖の固有種であるニゴロブナを用いた鮎ずしなどの食文化や自然と文化が織りなす優れた景観である「近江八景」なども重要な文化サービスです。

基盤サービス

人間が生きていくための基盤を担う、土、水、空気、エネルギー、栄養といったものを言います。中でも、空気を作り出し、光合成によって有機物を生み出す植物はすべての生きものの営みの基盤をなすものです。